

2023 第34回 味な平和ゼミナール



焼津高校演劇部上演

身近なところから平和を学び、手作りの味を楽しむ「味平」。こんな幸せなひと時を作り出すことこそが、平和の原点かもしれません。

来年はビキニ水爆被災 70 年を迎えます。久保山さんが残した思いはその後、大きな核廃絶運動に繋がりました。しかし、第五福竜丸以外の多くの漁船被爆の問題は未解決のままであり、地球規模の核汚染、グローバルヒバクシャ、加えて、核兵器による威嚇、脅威、原発事故の危険も増すばかりです。「核抑止、軍拡」ではなく、交渉による平和な世界実現が希求される今こそ、反核平和運動を生んだ第五福竜丸の歴史を学び、語り継ぐことが大切だと考えます。悲劇を繰り返さないために、味平 34 年の歴史を踏まえ、平和な未来を築くために、味を楽しみながら、大いに語り合いましょう！

- 日時:2023年12月17日(日) 13:20~16:30
- 場所:藤枝市文化センター1F ホール:藤枝市駅前2丁目1の5
054(641)1111 / JR 藤枝駅北口から徒歩約4分
- テーマ:ビキニ水爆被災 70 年 グローバルヒバクシャ、悲劇を繰り返さないために



DVD ジャケット

●内容・日程:13:20~17:00

13:20 受付(資料配布)13:30~開会挨拶、紹介

13:40~**平和の部** ビキニ水爆被災 70 年 グローバルヒバクシャ、悲劇を繰り返さないために

朗読劇 DVD 上映(日本語版:焼津高校演劇部 19 分、英語版:新英研静岡他)

制作にあたって・解説(粕谷たか子)

朗読者の方々から(「史実が自分事になった」「知ったから分かった」)

作者のこだわり(佐々木悦子・中村勇)

14:30~質疑・休憩

14:45~**報告**「核実験場にされたマーシャル諸島の人々」(レウィ千穂さん)

水爆の人類最初の犠牲者はマーシャル諸島の人たちだった。

マーシャルに20回以上も通いました…来年マーシャルに移住予定

15:15~質疑

15:30~**味の部:参加者からの声・発表・報告**

エバーグリーン活動報告(藤枝市平和展、²⁰²⁴ 高校生平和集会焼津)

16:30~閉会、片付け

●参加費用:500円

●申し込み先:

静岡県高等学校障害児学校教職員組合 054-254-6900 info@s-koukyoso.jp

橋本 純 090-1866-4887 hashijun@xf7.so-net.ne.jp

高教組志太榛原地区 教文担当 山口良二 090-9663-6101 george2525peace@yahoo.co.jp



レウィ千穂さん



不安な表情を浮かべながら再移住するビキニ島民

絵本のDVD化にあたって



2017年7月7日に国連で採択された核兵器禁止条約の批准国は、2023年9月19日現在69か国となりました。「核抑止論」を前面に押し出す核保有国、アメリカの傘にしがみついた日本政府は、被ばく者のねがいを踏みにじり批准を拒んでいます。「人類と核は共存できない」ことは誰の目にもあきらかです。ビキニ水爆被災から70年目を迎えるにあたり「私たちは絶対に忘れない。語り継ぎます。核廃絶をめざします。」と気持ちを新たにしています。

今年、学び直しと語り継ぎに使えるようにと考えて、絵本『ばらの祈り～死の灰を越えて』(2018年)をDVD化しました。「誰でも日本語・英語で平和を発信できるようになってほしい」と、日英二か国語のテキストと朗読劇を収録しました。朗読は、史実を自分事と捉える変化を読む者の心の中におこしてくれます。高校生による朗読劇に、心の変化と成長を感じることができるのではないのでしょうか。核被害の実相を知るための資料、学習と語り継ぎの取り組みを示す具体例も含めました。併せて冊子にもしました。PDF版を印刷すれば、絵本となります。ご活用いただければ幸いです。2023年 粕谷たか子

核実験・グローバルヒバクシャ



米国は1976年から79年にかけて、核実験の放射性物質で汚染されたマーシャル諸島エニウェトク環礁の五つの島の除染作業を行い、プルトニウムなどに汚染された土壌や残骸をコンクリートとともに、核実験でできたクレーターに投棄した。除染作業は約4千人の米軍兵士によって行われた(ルニット島)(CNN)

冷戦時代に米国が核実験を行った太平洋のマーシャル諸島では、原発事故が起きたチェルノブイリや福島よりも放射線量が高い場所があるという調査結果を、米コロンビア大の研究チームが発表した。米政府は1946～58年にかけて、マーシャル諸島の小さな島々で67回の核実験を行った。米政府は島の全住民を強制的に移住させ、この時の被爆が原因でがんなどの疾患を発症した人たちもいる。研究チームがこうした島々の土壌を検査したところ、マーシャル諸島の北側にある4つの環礁では依然として異常に高い値の放射性物質が検出された。

『味平ゼミ』ってナニ？

☆静岡高教組の焼津水産分会は伝統的に平和を大切にしていた。年に三回、校外に出て行動する日があった。ビキニデーの3月1日、平和行進が焼津を通る5月25日、久保山愛吉さんの命日の9月23日だ。そういった行事の後には反省会と称していつもイッパイやっていた。そんな中で、「何かやりたいね」と言い出したのもガンさん(小林巖さん)だったろう。高知県の幡多ゼミが頭にあった。「堅苦しくないのがええ」「焼津でやるだし、うまい魚を食わせてやりてえ」「戻りガツオがええら」「イッパイやるなら『磯自慢』だら」と盛り上がった。さて、名前は？焼津平和ゼミなんありふれてるのでお断り。「味な平和ゼミナール、略して『味平ゼミ』はどうだい」と提案すると一発で決まった。沈黙を続ける第五福竜丸の見崎漁労長を引っ張り出したのもガンさんのお手柄だった。昼休みや放課後に出かけて行き、お菜を買うという口実で、例の人なつこい調子で話し込み、とうとうみんなの前で話すという約束を取り付けてしまった。

(2020年11月3日第31回味平報告集から)(梅澤武夫)

☆「(前略)1996年、味平の3回目に、見崎吉男さんが人前では初めて話すことになりました。その場にいましたが、なぜ話せなかったのかという理由、当時の私にはわかりませんでした。焼津では第五福竜丸のことはタブーで、話せなかったのです。乗組員は焼津を離れてしまったので、正しく伝わっていない、そんな思いから勇気をもって私たちの前で話してくれたのです。それが続き、このように大きくなっていることはすごいことだと思います。」(前田浪江)



2024年で、アメリカが行ったビキニ水爆実験ブラボーショットから70年となります。絵本『ばらの祈り～死の灰を越えて』が2018年に出版された時には、自らの体験を様々な場で熱心に語ってくれていた第五福竜丸元乗組員の3人の漁師さんが、その後次々に亡くなってしまいました。見崎進さん(2019年2月25日92歳)池田正穂さん(2020年2月20日87歳)大石又七さん(2021年3月7日87歳)と旅立たれました。国を相手に裁判を起こし、たたかい続けている高知県でも、何人かの被ばく漁師さんが他界されました。残念でなりません。



絵本『ばらの祈り～死の灰を越えて』は、久保山愛吉・すずさん家族の愛と勇気のお話であり、私たちが繋いできた歴史です。優しくほのぼのとした絵の力もあり、感動は広く伝わっていききました。個人で読むだけでなく、子どもたちへの読み聞かせ活動、グループでの朗読劇、英語の学習、絵の展示会など、多彩な活用をしていただきました。海外、特にアメリカに知らせたいとの願いは共有されて、多くの方が海外に送ってくれました。アメリカの議会図書館にも収蔵されました。合計5000部を発行して、現在、手元には数冊残すだけとなりました。

紙芝居「ばらの祈り」に触発されて、アメリカ人監督キース・レイミンクは、ビキニ水爆被災を描いたドキュメンタリー映画「西から昇った太陽」を制作しました。紙芝居方式のアニメーションと第五福竜丸元乗組員の3人の証言を組み合わせたユニークな映画です。見崎進さん・池田正穂さん・大石又七さんは、映画の中で永遠に元気に語り続けます。

< {ばらの祈り} の一場面より >

"You are doing very well. I am impressed that your family's grave is always so clean. Suzu, some people are upset about your involvement with the movement against atomic and hydrogen bombs. But I think your movement will make our children's future more peaceful, even if that future isn't visible just yet."



「あんたもよくやるのお。いつもお墓がきれいにしてあって感心してますよ。すずさん、あんたちの原水爆禁止の運動にああだのこうだと揚げ足をとる人もいるけえが、ああやってみなさんが一生懸命運動をやってくれることん、目にやあ見えないけえが、どんなに平和や子どもや孫たちを守るのにためになっっているか知れねいだよ。」